



自己紹介からコミュニケーションへ

▼ **Warm up**

解答例はテキストの掲載例を参照。他に...

- ・友達を作ること
- ・価値観を共有できる人を探すこと
- ・自分からまず紹介することによって、相手にも話すきっかけを作ってあげること

etc.

▼ **Q.1**

自由解答



相手に自分が熱中していることを効果的に伝えるために、そのきっかけ（原因）を明らかにすることが大事なのだ、ということを再確認させながら解答させましょう。

▼ **Q.2**

自由解答

▼ **Q.3**

自由解答



お互いの印象を共有させたあと、自分のありのままの姿が相手に届いたか確認する作業をさせましょう。また、Q.1 - Q.3の活動の目的は初対面の会話を通してコミュニケーションの糸口を見つけることなので、問題文を超えて、両者の間に会話の発展を持つよう促しましょう。

▼ **Q.4**

自由解答



小規模のクラスであれば一対一ではなく、活動の輪を広げても構いません。またこの問いでのメモをクラスに向かって発表し、パートナーの紹介をすることもクラスの雰囲気を作る一助になります。

▼ **Q.5**

解答例はテキストの掲載例を参照。他に...

- ・友人が自分のことをどう言っているか
- ・見た目の印象と実際のギャップ
- ・あだ名の由来

etc.

▼ **Q.6**

解答例

- ・「社交的」，「積極性がある」など漠然さを避けた話
- ・趣味，特技などが他人と同じでも切り口の異なった話
- ・聞き手が質問しやすい話題

etc.

▼ **Q.7**

解答例はテキストの掲載例を参照。他に...

- ・おおげさでない程度の笑顔で話す
- ・腕を組んだり，ポケットに手を突っ込んだりしない
- ・直立不動でなく適度に体を動かす
- ・相手が複数なら，全員をくまなく見るようにする

etc.

▼ **Q.8**

自由解答



まとめの演習なので，自己紹介でよかった例を挙げて講評すると良いでしょう。自己紹介はコミュニケーションの自信を深める場なので，敢えて各自の悪い点は挙げず，よかった点を強調するのがポイントです。



Unit 2

コミュニケーション・スキル

Unit 1

▼ Warm up

「communic- (共有の) + -ate (…にする)」(『ジーニアス英和大辞典』(大修館書店, 電子辞書版)を参照)が語源。つまり、「他の人と共有する」の意。



日本語の「コミュニケーションをとる」から「単に会話をする」と考えてしまう学生の誤解を正し、あくまでも「意思・情報などを聞き手と『共有』する」ことができ初めてコミュニケーションが成立することを意識させましょう。

▼ Q.1

自由解答 (解答例はテキストの掲載例を参照)

▼ Q.2

解答例はテキストの掲載例を参照。他に...

- ・カテゴリー2: 聞き取りやすいようにゆっくり話す, *etc.*
- ・カテゴリー3: できるだけ具体例を活用する, *etc.*
- ・その他: 身ぶり手ぶりも交えながら話す, *etc.*

▼ Q.3

1つ目の設問:

自由解答 (解答例はテキストの掲載例を参照)

2つ目の設問:

解答例

私:「美味しい料理を作るためには、人材・経験・資金・施設が必要だと考えています。」

私:「また、その調味料とお皿にはそれぞれ、情熱と愛社精神を使います。」

私:「なぜなら、まず前者について、たとえ資金や施設が整っていたとしても、一貫して心の底から湧き立つようなエネルギーを注がなければ良い商品を開発できないと考えるからです。他方、後者について、お皿とは食材を支える根底にあたるものですから、企業活動では愛社精神がそれに相当すると考えるからです。」



2つ目の設問について、「もしあなたが料理人だとしたら」と仮定されているだけであり、

あくまでも「企業の就職面接」であることを学生に意識づけましょう。つまり、ここでのコミュニケーションは企業側の「意図をくみ取る」ことが真意であり、その点で、「美味しい料理を作るためには新鮮な食材が、調味料には塩・胡椒が…」といった解答はここでのコミュニケーションの場には相応しくない、ということになります。

▼ Q.4

解答例

マーティ：「何を言っているんだよ、博士！現代の最高級品はどれも日本製だぜ。あんたが誤解したのは、この時代（1950年代）と僕がやって来た時代とでは、日本製品のクオリティが全然違うってことを知らないからなんだ。30年後には、自動車や電化製品といった日本製品は世界最高水準に達しているんだよ。」



高度経済成長期として日本経済が飛躍的な成長を果たした時期は、一般に、1954年12月から1973年11月までの約19年間であると言われています。厳密には、戦後の日本の経済成長は、鉄鋼、石炭、造船などの産業に始まり、それ以降、徐々に自動車や家電製品へとその中心が移行することとなりました。そのため、上記のやり取りには、まだ高度経済成長期が始まったばかりの日本の時代背景が存在しています。（なお、本作が公開されたのは1985年のことであり、その頃には日本製品が世界を席巻していた実例として、1979年にSONYからウォークマン1号機「TPS-L2」が発売されていたことなどが挙げられます。）相手の誤解を正すためのコミュニケーションを行うには、このような「背景知識」をしっかりおさえることも重要であることを理解させましょう。

▼ Q.5

解答例

勝元：「将軍が私に介錯を求めたんだ。侍というものは敗れてなお生き恥をさらすことができない。だから、その責任をとろうとする将軍を介錯するのは名誉な役割だったんだ。」

理由：侍は常に死を間近に感じているからこそ、一瞬一瞬の生のありがたさを実感していると言われている。また、「人は一代、名は末代」と言われるように、名誉を最上のものとしている。したがって、自身、さらには家の名誉に傷がつくぐらいであれば、常に身近に感じている死を自ら選択する風習があったと考えられる。



侍についての解釈は学生によって異なるかもしれませんが、いずれにしても、異文化圏の人々に自分たちの文化を理解してもらうためのコミュニケーションを行うには、その前提として「自身のアイデンティティが如何なるものか」を常日頃から見つけておくことが重要である、という点を実感させましょう。

▼ Q.6

解答例

- ・ 選択した題材：好きな国（ルーマニア）
- ・ 選択した方法：アンチ・クライマックス法
- ・ 内容：

[**選択した題材**] 私の好きな国はルーマニアです。[**主題**] なぜなら、ルーマニアには、豊かな観光資源、美味たる食材、そして心を癒してくれる人たちのすべてが揃っているからです。[**具体例**] まず、観光資源については、6箇所の世界遺産と1箇所の自然遺産を保有していますが、それらに加えて最も有名なのが、かのドラキュラの居城のモデルとなった「ブラン城」でしょう。私たちのイメージと逆に、ドラキュラのモデルとなったブラド公はオスマン・トルコ軍に対して奮闘した功績から、ルーマニアでは英雄です。その居城のまわりでは伝統工芸品店で賑わい、一年中、世界各国から多くの人たちが集まってきます。次に、美味たる食材についてですが、村の人たちによる手作りのチーズやハム、ソーセージが特に絶品で、ツイカと呼ばれるプラム酒と一緒に食すると、至上の幸せを感じることができます。最後に、ルーマニアの人たちはダンスとお酒をこよなく愛し、常に陽気に接してくれます。「明日のことは明日考えれば良い」という口癖も彼らの国民性を表しているでしょう。[**まとめ**] 以上の理由から、機会があれば、ぜひルーマニアに立ち寄ってその魅力を実感してほしいです。



時間に余裕があるようであれば、「クライマックス法」、「アンチ・クライマックス法」の両方の方法を試させ、

どちらが聞きやすかったか、またその前提として、話し手が選んだ題材について、聞き手は最初から興味を持っていたかどうか

を学生自身に確認させることで、これら2つの方法の活用について理解をさらに深めさせることができます。

▼ Q.7

解答例

悩み：留学すべきかどうか

解答：資金と時間に余裕があれば、早い段階で留学してさまざまな価値観に触れておくというのは今後の君の充実した人生につながると思うよ。逆に、その余裕が十分でないのであれば、留学前に国内でも出来ることはたくさんあると思う。日本の文化や価値観を外国語でしっかりと発信できる準備をしておくとか、訪日外国人の生活をサポートするボランティア団体などに参加して自身の足りないところを見つめたりしておくとか。そうした準備をしておく、実際に留学したときには、より充実した時間を過ごせるだろうしね。いずれにしてもメリットがあると思うよ。



Unit 3

非言語的コミュニケーション

▼ Warm up

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）



Unit 2 の Q.1 および Q.2 の内容と連動させると効果的です。

▼ Q.1

自由解答



恥ずかしがる感覚を取り去るための設問ですので，できるだけ大げさに実践するように指導しましょう。

▼ Q.2

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）

▼ Q.3

自由解答



Q.1 と同様，恥ずかしがる感覚を取り去るための設問ですので，できるだけ大げさに実践するように指導しましょう。

▼ Q.4

自由解答

▼ Q.5

自由解答



Q.1 と同様，恥ずかしがる感覚を取り去るための設問ですので，できるだけ大げさに実践するように指導しましょう。

▼ Q.6

自由解答

▼ Q.7

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）

▼ Q.8

解答例

- ・置くべき物：ノートパソコン，辞書・専門書，幾何学デザインのオブジェ，*etc.*
- ・持たせるもの：iPad，データ資料，*etc.*



Unit 4

アイデアを生み出す技術

▼ Warm up

解答例

- ・問題が発生した場合の解決策・打開策
- ・就職活動におけるグループディスカッション
- ・新商品の開発

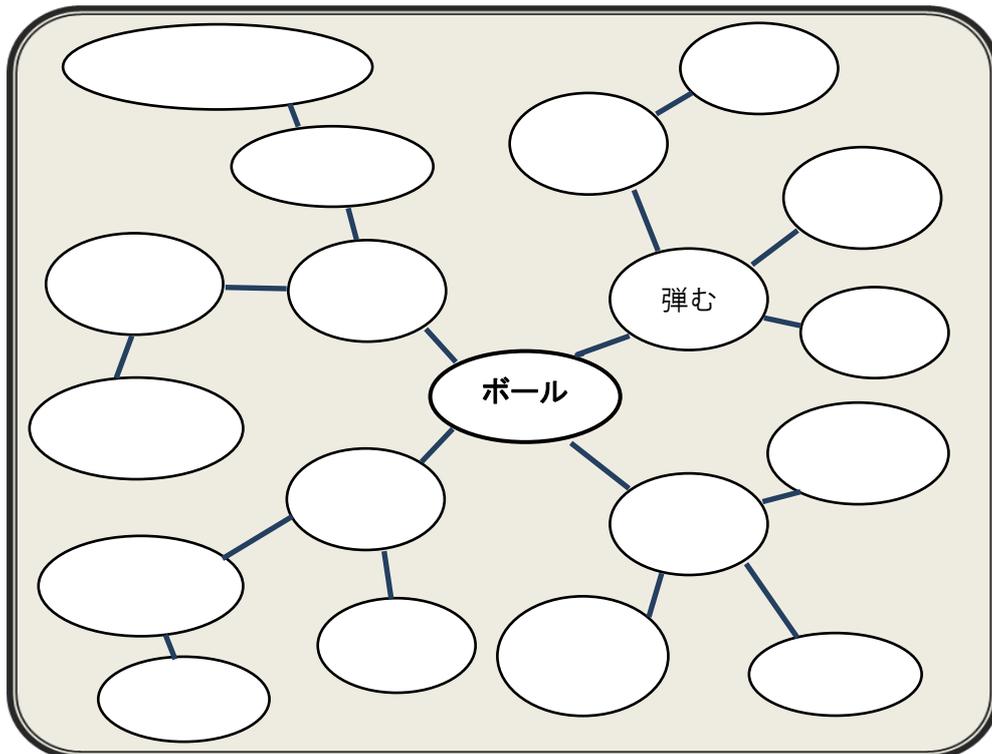
▼ Q.1

解答例はテキストの掲載例を参照。



各ペアまたはグループ内で自由にブレイン・ストーミングをおこなったうえで、出てきたアイデアから一定の提案を導き出さしてください。そのうえで、それらの提案の比較検討からクラス全体としての最終的な提案を導き出しましょう。

▼ Q.2





マインド・マップの枝を伸ばしていく際には、出発点となる語句の「形状」, 「性質」, 「特徴」などを参考にしながら、各自で自由に連想させましょう。そのうえで、ペアまたはグループになって自分の発想と他者の発想を比較させてみてください。

▼ Q.3

解答例はテキストの掲載例を参照。



この作業は単独でおこなっても、ペアまたはグループでおこなっても構いません。いずれにしても、作業が終わったらそれらの成果を踏まえて皆で「新たな交通機関」や「既存の交通機関に関する新たな制度やサービス」などについて意見交換をさせると良いでしょう。

▼ Q.4

解答例はテキストの掲載例を参照。



Q3と同様、この作業は単独でおこなっても、ペアまたはグループでおこなっても構いません。作業が終わったらそれらの成果を踏まえて皆で「携帯電話（スマホ）の新製品」や「携帯電話（スマホ）に関する新たな制度やサービス」などについて意見交換をさせると良いでしょう。



Unit 5
プレゼンテーションの構造

▼ Q.1

解答例はテキストの掲載例を参照。他に...

<良い例>

- ・適度に脱線する
- ・時おりこちらに話しかけてくる
- ・知ってほしいポイントを明確にする
- ・冗談を入れて笑いを取る

etc.

<悪い例>

- ・話の冒頭でポイントが見えない
- ・メリハリがない
- ・同じことを何度も繰り返す

etc.

▼ Q.2

自由解答



(1) で相手の特徴をできるだけ詳細に書けば、おのずと (3) のプレゼントの根拠が明確になることを強調しましょう。

▼ Q.3

題「LINE などの SNS」

誰に：中高生の子供を持つ親

何を：子供は SNS の使い方をしっかり学ぶべきだ

なぜ：① SNS を使った悪質な犯罪が増えているから

② SNS に書き込む情報は意図に反して拡散するから

③ SNS の情報は未来永劫残ってしまうから

▼ **Q.4**

解答例

Facebook や LINE など、ネット上のコミュニティを SNS (Social Networking Service) と言います。みなさんのお子さんの多くがスマホを通じて SNS を使っているのではないのでしょうか。私は中高生の皆さんに SNS の使い方をしっかり学んでほしいと考えます。その理由は、第一に SNS を使った悪質な犯罪が増えている点、第二に SNS 上の情報は拡散する可能性がある点、第三に SNS の情報はネット上から消えない点、の三点です。

SNS では見知らぬ人と安易に知り合う危険が常にあります。悪意のある人間であれば言葉巧みに子供を騙すことができ、本来ならば起こり得ない犯罪に子供を巻き込むことがいとも簡単にできてしまいます。

SNS の情報は常に拡散する危険性を持ちます。たとえば写真を仲の良い友達だけに送ったつもりでも、その友達から第三者に渡り、誹謗中傷されたり悪用されたりする事件は現実には起きているのです。

いったん SNS に載せた情報は、たとえ自分が削除しても、他人に渡った瞬間、ネット空間に未来永劫残ってしまう可能性を持ちます。そしてその情報が悪用されないとは誰も保証できないのです。

SNS の使い方をしっかり学べば、こういった危険を回避ができます。本来 SNS は生活をより楽しくするためのものですから、一度みなさんもお子さんと SNS の危険性を話しあってはいかがでしょうか。

<529 語>



まずはここで書いてもらった文を読んでもらい、相互評価をするのが良いでしょう。時間的に余裕があれば、文の内容をしっかり覚えさせ、実際のプレゼンをしてもらうのが理想的です。また、丸暗記ではプレゼン自体が硬くなるので、その際 Q.3 で作成したアウトラインをメモ代わりにプレゼンさせるのも一つの方法です。



Unit 6
主張の裏づけかた

▼ Q.1

解答例

- ・食生活の乱れた学生が多いから ➡ □ 学生の健康増進に貢献できる
- ・一日の元気の源になるから ➡ 授業で集中力が増す
- ・対外的に学校の PR になる ➡ 入学希望者が増える

▼ Q.2

解答例

要素②：仕事の成果をイメージできること

例：自分のすべきことを把握し、周到に準備することによってゴールを明確にイメージすることができる。

要素③：適度なプレッシャーを楽しめること

例：要素②を实践しながら、限られた時間や条件のもとで仕事をこなすことができる。

▼ Q.3

解答例

要素①：規則正しい食事をとること

例：バランスよく栄養をとることにより生活習慣病になりにくい体にする。

要素②：十分な睡眠・休息をとること

例：疲れを取り、体調を整える。

要素③：趣味などの余暇を持つこと

例：ストレスを解消し、精神を安定させることによって体調の崩れを回避する。

▼ Q.4

解答例

賞賛されるプレゼンテーションをするには…

1. 皆の関心の高いトピックを選ぶ。
2. 主張と根拠を明確にして、アウトラインを作る。
3. 時間内で収まるよう練習を重ねる。

4. 非言語的コミュニケーションを多く取り入れダイナミックなプレゼンをする。
5. パワーポイントなどのビジュアル資料をシンプルなものにする。

etc.



解答例 5 にある「パワーポイントなどのビジュアル資料をシンプルなものにする」ことの原因は、文字数が多すぎたり、アニメーションや効果音などを多用しすぎたりすると、伝えたいメッセージがぼやけてしまうからです。

▼ Q.5

解答例

主張：死刑制度を維持すべきだ。

反論：死刑はそれ自体が殺人であり，廃止すべきだ。

反論への論駁：

- ①現代では仇討ちに代表される復讐の権利は認められていない。愛する人を奪われた遺族の感情をどのように緩和するのか？
- ②殺人には死をもって償うという死刑制度の存続は凶悪犯罪の抑止力となる。
- ③死刑は生命に対する権利を侵害するため許されないという人がいるが，被害者の生命に対する権利を侵害した行為自体はどのように正当化するのだろうか？

▼ Q.6

解答例

主張：死刑制度を廃止すべきだ。

反論：遺族感情に応えるため死刑は維持すべきだ。

反論への論駁：

- ①遺族の中には，死刑による新たな殺人に心を痛める人もいるだろう。
- ②死刑執行により、被害者遺族だけでなく，新たな遺族が生まれてしまう。
- ③冤罪の場合，死刑では後戻りができない。



Unit 7

文章とプレゼンテーションの相似性

▼ Q.1

解答例

耳が不自由な人が手を使ってものを伝えることを手話という。



最終段落にある「話し言葉と手話には伝達力という意味でなんら大きな違いはない」を解答とする学生もいると思います。ただこれは主たる主張ではなく、主張の補強に当たるということを示してください。

▼ Q.2

解答例

サポート① 手話では、指の形が文字を表す。

サポート② 手話では、手を動かして単語を表す。

サポート③ 手話では、表情に意味がある。

▼ Q.3

解答例

第一段落の筆者の主張をさらに補強し、文章のまとめとしている。

▼ Q.4

解答例

第1段落：本論＋根拠（サポート）

本論：子供は SNS の使い方をしっかり学ぶべきだ

根拠：① SNS を使った悪質な犯罪が増えているから

② SNS に書き込む情報は意図に反して拡散するから

③ SNS の情報は未来永劫残ってしまうから

第2段落：サポート1の展開

SNS では見知らぬ人と安易に知り合う危険が常にある。子供は簡単に騙され、犯罪に巻き込まれる可能性もある。

第3段落：サポート2の展開

たとえば写真を仲の良い友達だけに送ったつもりでも、その友達から第三者に

渡り，誹謗中傷や悪用の危険にさらされることもある。

第4段落：サポート3の展開

たとえ自分が削除した情報でも，他人に渡った瞬間にネット空間すべてから削除することは不可能になり，危険にさらされる可能性がある。

第5段落：まとめ

SNSは本来楽しくて便利なもの。使い方をしっかり学び，みずから危険を招くことをしないよう，子供と話し合ってみては？

▼ Q.5

解答例

SNSを利用する中高生は多いが，使い方を知らないと思わぬ危険にさらされてしまう。それは悪質な犯罪に巻き込まれる危険性，個人情報拡散の危険性，個人情報が完全消去できない危険性である。

SNSでは見知らぬ人と安易に接点を持ってしまう。悪意のある人間が子供を騙し，犯罪に子供が巻き込まれる可能性がある。

SNS上の情報は意図せず拡散する可能性がある。たとえばプライベートな写真を友達だけに送ったつもりでも，その友達から第三者に渡り，誹謗中傷されたり悪用されたりする事件は現実に起こっている。

いったんSNSに載せた情報は，たとえ自分が削除しても，ネット空間に未来永劫残ってしまう。その情報が悪用されない保証はまったくないのだ。

SNSの使い方をしっかり学べば，こういった危険を回避することができる。本来SNSは楽しく便利なものなのだから，これらの危険性を十分理解し利用することが重要である。

<394語>



Unit 8

レジユメの書きかた

▼ Q.1

解答例

数字など、事実関係を含め、一文で事象の本質をまとめるよう心がける。

「水深は地域によって多様である」や「地質学的には海水におおわれた大陸といえる」と言った補足的な説明部分は省く。

▼ Q.2

解答例

「しかし」は A と B を同格に置きながら、論理転換する逆接の接続詞。これにより、大陸棚が海底ではなく大陸であることを強調している。



接続詞の効用に言及すると、バリエーションのあるレジユメを作ることができます。「しかし」、「一方」などの逆接の接続詞、「そして」、「また」などの順接の接続詞、「つまり」、「すなわち」などの言い換えの接続詞、「さらに」、「加えて」などの追加の接続詞を入れてレジユメを作成するよう指導するのも良いでしょう。

▼ Q.3

解答例

- (1) ポイントごとに見出しを置き、強調する。例：大陸棚の重要性
- (2) 下線や波線を引く。
- (3) 「☞」で重要な展開部分を示す。

▼ Q.4

解答例

大陸棚のいま および 海洋資源の争奪、紛争を招く可能性

大陸棚とは単なる地質学的なものではなく、政治的・地政学的に重要なものであること、それが海洋国日本にとって重要なことであることを作者は示したいと思っている。

▼ Q.5

解答例

お互いに似ているが異なっている点は何なのかを明確に示すために、それぞれ分けるより、項目ごとに「エルニーニョ」、「ラニーニャ」の特徴を併記する。

▼ Q.6

自由解答



レジュメを作る際、学生一人一人の独創性を尊重し、自由に考えさせるようにしましょう。そうすることにより、個性のあるレジュメができ、クラスで比較することもできます。

▼ Q.7

解答例

20〇〇年〇月〇日 〇山 △子
エルニーニョとラニーニャ
<u>現象</u> エルニーニョ (<i>El Niño</i>), ラニーニャ (<i>La Niña</i>) とともに海面温度の変化が気象変動を起こすこと
<u>原因</u> エルニーニョ: 赤道付近の東太平洋における海面温度の上昇 ラニーニャ: 赤道付近の東太平洋における海面温度の下降
<u>日本への影響</u> エルニーニョ: 冷夏, 暖冬, 梅雨明けの遅れ, 台風発生数の減少 ラニーニャ: 北日本での高温, 西日本の太平洋側の多雨・低温。厳冬。 海面水温の上昇と活発な対流活動 → 台風発生数の増加
<u>監視活動</u> 1992年より予測モデルを用いて6ヵ月先まで予測し, 速報として毎月発表
【ブリタニカ国際大百科事典 小項目版, ブリタニカ・ジャパン社 (2014)】



Unit 9
意見の形成と主張

▼ Q.1

解答例①

意見：警備員（市側）の味方につく。

理由：

- ・看板には明確に「二輪車」と書いてある。自転車は基本的に二輪なので該当する。
- ・自転車（特にスポーツタイプ）はオートバイほどでは無いものの、かなりスピードが出るし、鉄を使った部品が多いので衝突したら怪我をする可能性がある。
- ・さらに、近年では自転車による死亡事故が増えており、社会問題になりつつある。
- ・公園は皆が楽しむための「公共の施設」であり、市民の安全を守るためにはA市の判断もやむを得ない。
- ・A市の公園を使用する男性は、A市が設置した看板に書かれたルールを守る義務がある。

解答例②

意見：男性側の味方につく。

理由：

- ・A市はオートバイ事故の発生を踏まえて看板を設置したのだから、当然看板の「二輪車」はオートバイを指すと考えるべきである。
- ・オートバイと異なり、自転車はそれほどスピードが出るわけでもなく、オートバイのような鉄のかたまりではないのだから、一緒にする必要性はない。
- ・公園は皆が楽しむための「公共の施設」なのだから、過剰な規制は市民の権利を奪うことにつながり、認められない。
- ・看板に書かれているルールは用語があいまいなため、ルールとして不完全である。そのような場合には、公園の利用者がそれぞれ他の人に迷惑をかけない範囲で自由に判断するほうが良い。



本事例の看板は、いろいろな解釈ができるようにわざと曖昧な用語を使用しています。ポイントは「自転車が二輪車に含まれるのかどうか（含めるべきかどうか）」ですので、この点を中心に議論させるようにしてください。

▼ Q.2

解答例

- ・公園は家族連れで賑わっていた
- ・オートバイが猛スピードで公園に突っ込んだ
- ・けが人は発生しなかった
- ・事故のあと A 市が看板を設置した
- ・看板は「二輪車の乗り入れ」を禁止している。
- ・自転車に乗った男性が、警備員に止められたため公園に入ることができなかった



ここでの作業は「客観的な事実」を抽出させることが目的ですので、単なる想像や推測はできるだけ排除しましょう。

▼ Q.3

解答例については上記 Q.1 の回答例①および②を参照。



ここでは自分たちの立場をいったん離れ、もし自分たちが相手側だったなら自分たちにとってどのような主張をするだろうかということを考えさせましょう。

▼ Q.4

解答例については上記 Q.1 の回答例①および②を参照。

▼ Q.5

解答例①：近年は自転車に乗る人のマナー違反が問題になったり、自転車と通行人の接触事故が増えたりしているので、人の命を守るという究極の正義のためには規制はやむを得ない。

解答例②：同じ二輪車だからといってオートバイと自転車を同列に扱うのは社会常識に反する。人の命はもちろん大切だが、過剰な規制は逆に人々が持っている権利を奪うことになりかねない。

▼ Q.6

解答例①：市側が全面的に正しい。

解答例②：市側が正しいものの、市の住民から自転車の乗り入れを求める意見が多い場合には、あらためて考える必要があるだろう。

解答例③：男性側が全面的に正しい。

解答例④：男性側が正しいものの、自転車に関係する何か重大な事故が公園内で発生したような場合には、あらためて考える必要があるだろう。

▼ Q.7



死刑制度への賛成または反対については、あまり深く考えずに直感で選ばせてください。
(もちろん、きちんとした意見の下で選んでもらっても構いません。)

▼ Q.8

解答例はテキストの掲載例を参照。

▼ Q.9

賛成派（存続派）の根拠の例

- ・人の命は人の命で償うべきである。
- ・遺族の気持ちがおさまらない。
- ・無期懲役の場合には、途中で出所してくる可能性がある。
- ・国民の多くが存続に賛成している。
- ・犯罪の抑止になる。

反対派（廃止派）の根拠の例

- ・失われた命はいずれにせよ戻ってこない。
- ・世界の多くの国（特に先進諸国）は死刑を廃止している。
- ・冤罪（えんざい）の危険性がある。
- ・犯罪の抑止どころか「死刑になりたいから人を殺す」ような人が出てくる可能性がある。
- ・死とか命の問題は多数決で決めるような問題ではない（世論とは別の次元に置くべき問題である）。



上記したそれぞれの根拠（のうちのいくつか）が出てくることを予想したうえで、それらの根拠に対してどのように反論することができるかを考えさせましょう。

▼ Q.10

究極の原因（例）：

- ・人が人を殺すことの重大さ（社会の反響，遺族の感情）
- ・人が人を裁いて死を宣告することの重大さ
- ・国家（権力）によって国民が合法的に殺害されることの重大さ
- ・命のかけがえなさ

▼ Q.11

解答例①：国内世論の多くが死刑の存続を求めているし、かけがえのない命だからこそ、命をもって償うことが正義なのである。死刑は存続させるべきである。

解答例②：国際社会の多くは死刑廃止へと動いているし、犯罪の抑止効果についても疑問が示されている。死刑に頼らない形で遺族の処罰感情に寄り添う方法こそが正義である。死刑は廃止するのが望ましい。

▼ **Q. 12**

解答例①：死刑制度には賛成である。

解答例②：死刑制度には賛成するが、「終身刑」制度が導入されるのであれば死刑は廃止しても構わない。

解答例③：死刑制度には反対である。

解答例④：死刑制度には反対であるが、遺族の処罰感情を汲み取る別の手段が無いのであれば、今のところは存続させるしかないだろう。

▼ **Q. 13**

解答例（「成人年齢の18歳への引き下げ」の場合）

- ・P：私は成人年齢の18歳への引き下げに賛成する。
- ・R：なぜなら、若いうちから大人としての自覚を持たせることは、社会全体に好ましい影響を与えるからである。
- ・E：たとえば、18歳から選挙権を与えれば、高校時代から国内の社会問題や、国の仕組みや政治状況について関心を持つようになる。
- ・P：したがって、成人年齢を18歳に引き下げることにより、若い活力が社会で発揮されることになるので私は引き下げに賛成である。



Unit 10
時系列の叙述

▼ Warm up

解答例

あらすじの特徴：

- ・時系列（事象の発生順）に書かれたもの
- ・どのように展開していくかがわかるように要約したもの， *etc.*

概要の特徴：

- ・内容をおおまかにまとめたもの
- ・内容だけでなく，その背景知識や意義などにも触れた全体像であるもの， *etc.*

▼ Q.1

自由解答



Q.3と連動しています。最終的には，Q.8で作成したものと比較させ，そのクオリティの違いを感じさせることで，時系列で述べる重要性を理解させることができます。

▼ Q.2

自由解答



解答例については，テキストの同ページにおける「カリギュラ効果」，「ブラシーボ効果」，「ラポール・トーク」各々の具体例を参考にしてください。

▼ Q.3

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）

▼ Q.4

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）



時系列で考えることが苦手な学生も少なくありませんが，その場合，第一期と第四期のそれぞれの内容を先に決めさせ，その後に，第二期・第三期のそれぞれの内容を考えさせるとスムーズに進ませることができるケースもあります。

▼ Q.5

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）

▼ Q.6

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）



締め言葉が思いつかない学生には、基本、聞き手に「共感」を覚えさせる言葉で結ばせると綺麗なまとめ方にさせることができます。

▼ Q.7

自由解答

▼ Q.8

自由解答



本文にも記載していますが、クライマックス法の流れを守らせると同時に、身ぶり手ぶりのジェスチャーと豊かな表情を交えさせることが、聞き手のさらなる共感をもたらすコツであることを徹底させましょう。



Unit 11
ものごとの説明

▼ Warm up

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）

▼ Q.1

解答例

- ・愛は炎のように熱いモノである
- ・愛は磁石のように引きあうモノである
- ・愛は紐のように結びつくモノである, *etc.*



本項から始まる「比喩とは何かを学ぼう！」について、その意義がわかりにくい学生には、本ユニットにおける最終ページの「まとめ」および「発展事例」を先に読ませることも指導の手助けとなります。

▼ Q.2

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）

▼ Q.3

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）



自由な発想を養うための側面を持つ設問ですが、どうしても思いつかない学生には、たとえば、「愛を注ぐ／愛に満たされる／愛に溺れる」、「愛が芽生える／愛が大きく育つ／愛が花開く」などの実例を与え、そこから各々「愛は液体である」、「愛は植物である」といった結びつきを導き出すような指導方法も効果的です。また、具体物で思いつかない学生には、「愛は戦争である」、「愛は狂気である」、「愛は病気である」、「愛は魔法である」といった結びつきを先に紹介し、各々の実例（例：相手を勝ち取る、狂おしいほど愛する、恋の病にかかる、恋の魔法にかかるなど）を考えさせるのも指導例の一例となります。

▼ Q.4

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）

▼ Q.5

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）

▼ Q.6

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）



参考までに、George Lakoff・Mark Johnson 著の *Metaphors We Live By* では、以下のような実例が紹介されています。

<LOVE IS A PHYSICAL FORCE (ELECTROMAGNETIC, GRAVITATIONAL, etc.)>

・ I was *magnetically drawn* to her. / They *gravitated* to each other immediately. *etc.*

<LOVE IS A PATIENT>

・ This is a sick relationship. / They have a *strong, healthy marriage. etc.*

<LOVE IS MADNESS>

・ I'm *crazy* about her. / I'm *insane* about her. *etc.*

<LOVE IS MAGIC>

・ She *cast her spell over* me. / I'm *charmed* by her. *etc.*

<LOVE IS WAR>

・ She *fought for* him, but his mistress *won out*. / He *won her hand* in marriage. *etc.*

<LOVE IS A JOURNEY>

・ We're just *spinning our wheels*. / It's been a *long, bumpy road*. [※車の旅]

・ We've gotten *off the track*. [※列車の旅]

・ Our marriage is *on the rocks*. / This relationship is *foundering*. [※船の旅]

etc.

▼ Q.7

解答例

人生は旅のように目的地に向かうための移動（という）側面を持っている。

なぜなら、人生はさまざまな障害を乗り越えながらも進んでいかなければならないからだ。

その証拠に「人生、山あり谷あり」、「人生の岐路」等と表現される。

なお、*My life has ups and downs*（私の人生は起伏がある）、*be at a crossroad of one's life*

（人生の岐路にいる）と表現されるように、英語でも同じ考え方が存在しており、人間としての共通の文化が観察される。



ここでいう「文化」とは、厳密には「言語文化（＝言語に反映されたモノの捉え方）」を指します。



Unit 12

ビジネス・トークにおける説得の論理

▼ Warm up

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）

▼ Q.1

自由解答



クラスメート全員へのマーケティング・リサーチについて、引っ込み思案のペアまたはグループも出てくるかもしれません。リサーチ活動の時間を予め設定してアナウンスしておく、活動的になるケースがあります。

▼ Q.2

自由解答



Q.3と連動しています。

▼ Q.3

自由解答（解答例はテキストの掲載例を参照）

▼ Q.4

解答例としては、

- ・カリギュラ効果：「わざわざ海外からお越し頂いたわけですから、お客様のためだけの特別価格でご提供致します！どうか他のお客様にはご内密ということで…。」
- ・ブラシーボ効果：「今日は、お客様が一見するだけで間違いなくお気に召される商品をご用意致しました！」
- ・ラポール・トーク：「どちらのお国からお越しですか？あっ、〇〇のお国と言えば、×××が有名ですよ。では、そんなお客様には、日本が誇るとびっきりの商品をご紹介します！」

▼ Q.5

自由解答（解答例はテキスト p. 77 の3つのポイント内における各々の掲載例を参照）



Unit 13

ディスカッションの基礎知識と実践

▼ Warm up

解答例

<利点>

- ・自分とは異なる意見や価値観に触れることができる。
- ・一人では考え付かなかったアイデアが生まれる可能性がある。
- ・コミュニケーションの訓練になる。

<問題点>

- ・集団内で対立状況が生まれてしまうことがある。
- ・意見がバラバラでまとまらなくなってしまう場合がある。
- ・特定の人が意見を述べたり、まったく意見を述べない人が出たりする可能性がある。

▼ Q.1

解答例

- ・「おもてなしの国, 日本」
- ・「クリーン・ジャパン／グリーン・ジャパン」(清潔さや自然環境・環境技術)

▼ Q.2

解答例

- ・人間の幸せとお金は一般的にいえば比例関係にある。
- ・お金で買える幸せもある。
- ・お金があると社会でさまざまな問題に巻き込まれる危険性が高くなるため、かならずしも人間の幸せとは関係ないのではないか。
- ・お金があると人はどうしてもそれを守ろうとするため、かえって幸せを手放してしまう結果になるのではないか。
- ・お金では買えない幸せがある。



上記2つの演習は自由討論を通して一定のアイデアや結論を導き出してもらおう作業であり、特に正解や模範解答はありませんが、最後にグループごとに発表させても良いでしょう。

▼ Q.3

解答例①：男女間で友情は「成立する」

根拠（例）：

- ・同じ人間なのだから，男女を越えた部分で友情が成立する余地はあるはずだ。たとえ同性間の友情とは異なるものであるとしても，別の形をした「友情」と呼べるものが成立するのではないか。
- ・実際自分にも異性の友人がいる。

解答例②：男女間で友情は「成立しない」

根拠（例）：

- ・たとえ生物学的には同じ人間でも，たとえば体つきの違いや，男性の脳と女性の脳の働きかたが違ふといわれるように，越えられない壁があるため，友情が成立する余地はないのではないか。
- ・友人だと思っていた異性から突然告白された経験がある。

▼ Q.4

根拠については Unit9 の Q.9 - Q.12 を参照。



上記 2 つの例題についても何か確定した正解があるわけではありません。ただし，ディスカッションを通して，グループとして賛否いずれかの立場を決定させることが大事です。最終的にはクラス全員でディスカッションをしても良いでしょう。

▼ Q.5

解答例

①原因・問題点の列挙：

- ・魅力的な観光地が少ない。
- ・交通の便があまり良くない。
- ・外国人観光客の必要性を都道府県の担当者（行政）があまり認識していない。
- ・英語の案内表示板が少ない

②原因・問題の特定化：

- ・都道府県（行政）が外国人観光客の経済効果を理解していない。

③解決策：

- ・他の都道府県の取り組みや経済効果を調査して，行政側にできるだけ関心をもってもらおう。
- そのうえで，新たな観光スポットの発掘，無料のシャトルバスの導入，英語看板の設置・通訳の養成などに共同で取り組む。

▼ **Q.6**

解答例：

- ・女性が出産や育児の際の休暇を取りやすくする。男性についても育児休暇を取りやすくする。
- ・託児所などのインフラを整備する。
- ・地方と都市部の人たちの交流を活発化する。
- ・子供を産んで育てたいと思えるような経済状況や社会的環境の実現を目指す。
- ・外国からの移民の受け入れを積極的に導入する。



Unit 14

ディベートの基礎知識と実践

▼ Q.1

解答例

選んだテーマ：

- ・原子力発電の廃止
- ・ゴミの有料化
- ・外国人への地方参政権付与
- ・外国からの移民受け入れ
- ・憲法改正
- ・死刑制度の廃止
- ・成人年齢の引き下げ
- ・夫婦別姓

自分の立場：

- ・「〇〇に賛成である」または「〇〇に反対である」

理由（原子力発電の廃止に反対の場合の例）：

- ・火力発電を使うと大量の化石燃料を外国から輸入することになり、経済的にも、エネルギーの安全保障上も問題がある。
- ・火力発電はCO₂を大量に排出するので、地球温暖化を加速させてしまう。
- ・太陽光などの自然エネルギーは、季節や時間によって出力が変動するため中心に据えることができない。
- ・原子力発電を廃止すると、それで生計を立てている多くの人が職を失ったり、地域の過疎化が進行したりしてしまう。

▼ Q.2

①～③自由解答

④解答例

収集した情報およびその分析結果（外国人への地方参政権の付与問題の場合）：

- ・日本に住んでいる外国人の総数と国別のデータ
- ・外国人参政権をめぐる内外の議論の状況
- ・日本政府の立場

論破するための材料（外国人への地方参政権の付与に賛成の場合）：

- ・外国人参政権を認めている例（国内・海外）
- ・外国人への参政権付与が日本国憲法上問題ないとする最高裁判所の判決（1995年）
- ・外国人に参政権を認めることによる政治的・経済的または教育上の効果



- ①：司会者およびジャッジについては、適当な人物をあらかじめクラスの中から数名選んでおいたり、ディベートをおこなわないグループに担当させたりすることが考えられます。あるいは、クラスの担当教員が自らおこなっても良いでしょう。
- ②：グループ分けについては、クラスの規模に応じて、2つ以上（ただし偶数）のグループに分けてください。
- ③：テーマの設定については、上記 Q.1 の解答例も参考にしつつ、実際に賛否が分かれている問題や賛否に分けることができる問題を自由に設定してください。グループの数が多い場合にはテーマの数を増やすほうが良いでしょう。そのうえで、②で決めたグループのなかで、どのグループが賛成側・反対側を担当するのかを決定してください。
- ④：情報の収集については、できるだけ「客観的な情報」（データや数値、政府の報告書、研究者の主張や見解など）を文献やインターネットを通して入手し、それに基づいて自分たちの主張を確立する（相手の主張を論破する準備をする）ことを意識させてください。

▼ Q.3

解答例（外国人への地方参政権の付与に賛成の場合）

- ①立場の確認：
 - 外国人への地方参政権の付与に賛成である。
- ②理由や根拠：
 - ・外国人にも地方参政権を認めることで、より多様な意見が政治に反映される。
 - ・外国人が置かれている状況の改善につながる。
- ③立場を補強する事例やデータ・調査：
 - ・日本で生活している外国人の総数の増加と彼らの生活状況
 - ・各自治体における外国人参政権導入の実例
 - ・外国における導入の実例
 - ・地方参政権付与を否定していない最高裁判所判決の存在
- ④予想される反論とそれに対する反論：
 - ・外国人が多くなったから地方参政権を与える義務が発生するというのはおかしい。
 - ⇨ 「義務が発生する」とは言っていない。外国人の意見を参政権の行使を通して地方自治体が汲み取ることで多様な意見が反映されることで、本当の意味での住民自治が実現する。

- ・外国人が置かれている状況が参政権付与によって改善されるというのは証明できない。
 ⇨ 仮に改善することができなかったとしても、自らの意見を投票という形で示すことができる手段が存在するということが重要なのである。そもそも、実際に導入する前に証明することなど不可能である。
- ・参政権というのはもともと国籍を有する国民固有の権利である。
 ⇨ 国政選挙についてはそれがあてはまるかもしれないが、ここで問題になっているのは地方参政権である。地方自治については、その地域に居住している「住民」の意見をきちんと反映させることが憲法第 92 条にいう「地方自治の本旨」なのではないか。
- ・最高裁判所の判決は外国人への参政権付与を命じた判決ではない。
 ⇨ 確かに最高裁判所は地方参政権の付与を命じているわけではないが、地方参政権の導入について背中を押しているとみることもできる。いずれにしても、この判決を根拠に外国人の地方参政権に反対することはできない。

⑤相手側の主張の強みや弱点：

<強みとそれに対する攻撃材料（例）>

- ・国内で地方参政権を導入している自治体はそれほど多くない。
 ⇨ だからこそ一層導入を進める必要があるということ。
- ・外国で地方参政権を導入している国はヨーロッパ諸国が中心である。
 ⇨ だからといってアジアで導入できないということにはならない。むしろ、アジアで最初に導入する国になって世界史に名を残せば良い。
- ・参政権が欲しいのであれば、日本に「帰化」すれば良い。
 ⇨ 「帰化した外国人」は日本国籍を獲得するのだから「外国人」ではなくなる。そうすると「外国人に対する参政権付与」の話ではなくなってしまうので、これは問題設定そのものを破壊する主張である。」

<弱みとそれに対する攻撃材料（例）>

- ・最高裁判所判決の存在
 ← 「憲法の番人」である最高裁判所が外国人に対する参政権の付与を否定していない事実は賛成の立場を強化する。
- ・「外国人」を一括りにして扱う議論（歴史的な経緯により日本に居住している定住外国人の存在）
 ← 多様性を排除して「外国人」として一括りにしてしまうと、様々な問題から目を遠ざけてしまう。在留外国人にもいろいろなカテゴリーがあるのだから、きめ細やかな議論や対応をするべきではないのか。
- ・現実の社会状況を直視しない硬直性
 ← 少子高齢化によって今から 100 年後はどのような社会になる可能性があり、それ

に向けてどのような政策や制度設計が求められるのか、こうした点を踏まえた柔軟な発想が必要なのではないか。

⑥結論：

外国人に地方参政権を付与することで地方自治が有意義なものになるし、最高裁判所もそれを否定していない。したがって参政権の付与に賛成である。